

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200077		
法人名	株式会社 ケアネット徳洲会		
事業所名	グループホームむつみ		
所在地	松戸市六実1-47-2		
自己評価作成日	2021年1月1日	評価結果市町村受理日	2021年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	文書(書面)評価 2021年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、ケアネット徳洲会の理念を基にした運営をしております。職員はご本人の残存機能を活かした時間の提供や、出来ること、やりたし事、その人らしい生活の支援をするための情報収集、情報共有を行い、認知症ケアを実践する体制を整えております。管理者は入居者様が笑顔で穏やかに生活できる環境作り、職員育成を心掛けております。2019年から2020年にかけて入職した職員が全職員の3分の2を占めるようになりました。2020年は新卒も入職し、職員の年齢層も若くなってきています。また、入居者様も半数が入れ替わり、施設の雰囲気が大きく変わってきています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ケアネット徳洲会の理念「生命を安心して預けられる施設」と「健康と生活を守る施設」の実現に向け、安全に配慮した環境作り、清潔で衛生的な環境整備に力を入れている。徳洲会医療施設との連携により、利用者の健康管理や容体の変化にもすぐに対応できる体制が整えられている。目指すホームの実現に、職員の育成が不可欠との観点から、年間14回の研修を実施、毎回レポートの提出と回覧などにより、研修で得た知見の定着を図っている。コロナ禍にあり、外出の機会が制限される中であっても、例年通り毎月の行事の開催や行事食の提供、また、ホーム中庭に設置されているウッドデッキを利用した体操、日光浴、イベントなどにより、気分転換となる機会を増やしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	事業者様で記入 ↓該当するものに○印	項目	事業者様で記入 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務室の他、個人の名札の裏にも印刷し、共有を図っている。朝礼のさいには、理念の唱和を行い、理念に基づくケアを心掛けている。(2020年度はコロナの影響により、朝礼を中止している)	ケアネット徳洲会の理念に沿ったホーム運営に注力している。事務所内への掲示の他、全体会議や研修会などで、管理者と職員は理念共有化を図っている。	新型コロナ禍のために、文書(書面)評価とした。事業所より提出いただいた①自己評価・②ACOB A質問への追加提出資料・③家族アンケート結果④その他介護計画等の資料を基にメールなどでの確認も行い実施した評価である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し、地域の行事や夜間パトロールに参加している。運営推進会議では地域包括支援センター職員、地域住民、民生委員、ご家族様の参加がある(コロナの影響により地域の行事は中止、運営推進会議は書面による開催)	コロナ禍により、地域の各種行事の中止が相次ぎ、地域との交流がストップしている。そんな中、書面開催の運営推進会議へは地域住民の参加を頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事、地域ケア会議へはできるだけ参加し、地域の方との交流や施設のアピールをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。参加依頼・議事録は全てのご家族様へ送付しており、数多くの意見を頂いている。会議内での意見をもとに施設内で検討し関わりを見直している。	コロナ禍で、書面による開催となっている。ホームの現状を詳細に記録したレジメを作成し、包括支援センター、家族等関係者に配布してコメントを頂き、議事録を作成し、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政及び包括支援センターとは、密に連絡を取っている。不明な事、手続きなどを不備のないように教えて頂いている。介護相談員は月1回、入居者様の相談に見えている(現在、中止)。	市の窓口は、介護保険課で、集団指導などを受けている。運営推進会議には、包括支援センターの職員が毎回参加して、意見を述べている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束を行わない方針である。やむを得ず行う時は家族の同意を得た上で、手続きを行っている。足元センサー使用の方も会社の方針により、手続きを取り使用している。マニュアルを整備し、研修、委員会も開催している。	年2回の研修の他、毎月、身体的拘束等適正化検討委員会を開催し、その議事録を参加しない職員へも回覧することなどにより、周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し、内部研修を通じて、全職員に共通理解を求めている。また、日頃のケア時に疑わしい傷など見られた場合には直ちに報告するよう促している。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては内部研修で取り上げ、全職員が学習できる機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず、ご家族様・入居者様に対し説明・納得をしていただいた上で、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を頂いたら、報告・話し合いをし、ケアプランに反映している。また、意向に沿えるように心がけている。	コロナ禍の影響で、家族のホームへの訪問回数の減少に伴い、直接意見を聞く機会は少なくなっている。その為、電話やメールを活用して、聴取の機会を増やす努力をしている。	家族の面会制限もあり、アンケートでは暮らしぶりや健康状態などについての報告の評価が低下している。コロナ禍の中での家族へのお知らせや意見の聞き取りなどについて更にご検討いただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議では意見交換や事故報告書の共有、業務改善の話し合いを行っている。	職員から意見を聞く機会としては、毎日の申し送り、毎月の全体会議、また、年間14回開催される研修などがある。参加した職員からの意見や提案を日常業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に関する担当を割り当て、職員が向上心を持てるように心がけている。有給休暇は積極的に取得してもらい、希望休にもほぼ答えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は認知症介護初任者研修、管理者研修、リーダー研修に1名ずつ参加。外部研修を受講する機会を増やせるよう努めている。また、本社開催の研修にも積極的に参加させ、個人の技術や知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域ケア会議等での交流があるが、その他の職員が交流する機会はほぼない。訪問に来ている医師、看護師、薬剤師との連携を通じて、サービスの質を向上させている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居様には少しでも早くホームでの生活に、慣れて頂けるように、傾聴し不安を減らすように心がけている。また、職員間においては、その方の情報を共有しケアにつなげられるよう促している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナの影響もあり、面会の機会が減ってしまっている。必要に応じて、ご家族様とは連絡を取り合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・ご家族様のアセスメントをし、それを基にケアプランを作成している。残存機能維持の為にリハビリを提案、ご紹介し行っている方もおられる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員へはケアをさせて頂いているという気持ちを持ってほしいと伝えてきている。新入職のスタッフが多く、まだ出来ないこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へはケアに参加して頂けるよう相談し参加して頂いている方もおられる。今後も参加していただけるようなプランを作成していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、知人の方が面会に来られたり、電話をかけてくださる方もおります。(コロナの影響で面会が制限され、外出する機会が減っています)	必要時のみ家族の面会を受け入れ「対面で話せることの有難さ実感している」と感謝の言葉を頂いている。知人等が定期的に電話をかけてくれたり、遠方の親戚からの郵便が届く方もある。雑祭り・七夕・敬老会等旧来からの馴染みの行事を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係は生活において重要だと考えている。気の合う方との時間を過ごして頂けるよう、フロア移動や座席は気を遣っている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したあとのフォローや関係性維持は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様別に、担当職員を決めている。普段の生活や会話・表情などあらゆる場面から、情報を汲み取り、全職員で共有している。それをケアプランに反映している。	本人・家族の入居時の話や生活歴等から概要を把握。担当制を採り日常的に丁寧な声掛けでコミュニケーションを密に傾聴に努め、表情・行動等から思い等を汲み取り、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの聞き取りや、情報提供書を基に把握し、全職員で共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録とは別に、個別の記録表を活用している。読んだ職員は新情報を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを実施、状態変化時はカンファレンスを行い家族へも相談後、ケアプランの変更や介護保険の区分変更を行っている。	本人・家族から希望等を聞き取り、介護記録・個別の記録表を活用し、職員間の意見等を基に月1回モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段とは違う行動、言動があった時、その方の注意すべき点や気づき、ケア方法の変更や医療上の指示等を記入する個別申し送り書を介護記録とは分けて使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録とは別に、個別の記録表を活用している。読んだ職員は新情報を把握できるようにしている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響もあり、外出する機会が減ってしまった。地域資源を把握し、活用していくことは今後の課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2020年9月より、ご家族様同意の上、かかりつけ医を変更した。月2回の往診、緊急時の電話相談など行ってきた。内科だけでなく、皮膚科、精神科、眼科の往診も行っており、以前より連携しやすくなった。	2020年9月から、家族の同意を得て、内科（月2回往診）・皮膚科・精神科・眼科・緊急時電話相談も行う医療機関に変更した。また訪問薬剤師や訪問看護師の受入、デイサービスの看護師が応急処置を行う等があり、利用者の安心度が増している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションよりNs.は週1回の訪問、入居者様の健康チェックや介護職では行うことが出来ない処置を行っていただいている。平日の日中はデイサービスのNs.に協力いただくこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同グループの総合病院と連携を図り、急変時のスムーズな受け入れ体制を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを実施している。現在も、医師、Ns.家族の協力を得て看取りケアを行っている。入居時に事業所指針を説明し、重度化や終末期によりホームでの看取りを希望される場合は同意書を交わし、可能な限りホームで対応している。	契約時に、医療的行為の発生が無ければ看取りを行っていることの事業所指針を説明し、希望され場合は同意書を交わしている。重度化した時は家族の協力のもと、医師・看護師・職員がチームケアで取り組んでいる。今年度も2名の方を見送っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地元の消防署の署員を講師として招き、救命救急訓練を定期的に行っている。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練・消火活動を実施。また、夜間帯・日勤帯を想定し、避難訓練を実施している。近隣の数軒に緊急時の協力をお願いしている。	消防署立会で出火想定避難訓練の他、毎月自主訓練を実施。防災委員会では風水害に対する備えについて検討している。水やアルファ米等の備蓄を整備し、近隣数軒に緊急時協力をお願いしている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴介助の際は声掛けやプライバシーに配慮した対応に努めている。使用禁止用語を定めているが、守れていない職員もいる。そのつど、指摘するよう努めている。	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を目指しているが、時々「～させる」「ダメ」等の使用禁止語が聞こえ、都度注意している。トイレ・入浴時の際は羞恥心に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立度の高い入居者様に対しては、自己決定できるよう働きかけている。意思の表出が困難な入居者様に対しても、自己決定を促すような関わり方を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	職員の都合を押し付けることは極力控え、入居者様のペースや希望を大切にしながら、集団生活を営めるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる入居者様は、ご自分で衣類を選べる環境を整えている。ご自分で選べない入居者様は、職員が季節・環境等に配慮しながら選び整えている。2か月に1度の訪問理美容では、希望者にはカラーリングも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員と一緒に食事の準備を行う機会が減ってしまった。片付けをお願いすることはある。食事を楽しんでいただけるよう、朝食と昼食は職員がキッチンで調理している。	職員と一緒に準備や片付けが出来る方は少なくなっている。誕生会や、敬老会ではちらし寿司の出前・ウッドデッキでバーベキューを行う等、楽しくかつ食欲の増す食事及び嚥下状態に応じた食事形態の提供をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は全食、全員チェックを行い、水分量が少ない入居者様は水分チェックを行っている。食事はムース食、きざみ食に対応し、栄養が足りない場合は、栄養補助食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。訪問歯科医の受診を行い、アドバイスを受けている。		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に応じた対応を行っている。基本はトイレでの排泄。それぞれの排泄パターンを把握し誘導を実施している。	トイレでの排泄を基本に、排泄パターンを把握し個々の状況に応じた声掛けや促しで誘導し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘や下痢のないようにしている。下痢は医師の許可のもと、施設内で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は職員都合になりがちであるが、1日2～3名、週2～3回を目安に入浴スケジュールを作成し、対応している。	入浴スケジュールを作成し、日中の時間帯で週2～3回の入浴支援をしている。本人の状況に応じ2人介助体制や、清拭対応の方もあ	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は各フロア1名で対応している。安心して休んでいただけるよう温度、湿度管理を行っている。日中もここに就寝する環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2020年7月より薬剤師による居宅療養管理指導を開始。医師の往診に同席し、処方された薬の管理や服薬指導などを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様お一人お一人の状態や気持ちを尊重し、穏やかな生活を送っていただけるよう全職員が心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で施設外へ出る機会は減ってしまったが、ご家族様同伴の外出されることはある。晴れた日はウッドデッキに出て、体操したり、日向ぼっこしたり、入居者様が寛げるよう対応している。	6月のゆいの花公園行き以外の外出は、中止している。気分転換と外気浴を兼ね、ウッドデッキを活用し体操したりバーベキューをしたり、雨天時には居間で体操や歩行等行い日常に変化を持たせた支援に努めている。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は施設長が行っている。ご家族様からの預かり金による対応を止め、施設の小口現金からの立替金による管理に変更。入居者様がお金を使う場面は、ほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご友人や親戚からハガキ・手紙が届く入居者様もおられる。携帯電話を持たれている入居者様もおられ、定期的に連絡をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は入居者様の作品やイベント時の写真を飾っている。職員で役割分担して施設内の清掃を行っている。清潔で明るい環境作りを全職員が心掛けている。	施設内は温度・湿度の管理及び掃除がこまめになされ、手摺り・ドアノブ・ベッド柵等、手の触れる箇所の消毒の徹底・換気等感染防止に努め、清潔で明るい環境作りに努めている。また歩行スペースに障害物となるような物を置かない等安全に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立されている方は、気の合う方を見つけ、お話ししたり、レクリエーションに取り組んだりしている。また、仲間作りの声掛けなどを、職員が行う場合もある。お一人の時間も大切に、自由に生活できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた物を持って来て頂いている方もおられる。ご家族様が、ご本人の居心地の良いスペースを作ってください。週一回、寝具類の洗濯、乾燥なども職員が行っている。	馴染みの家具や小物等を持ち込み居心地良く過ごせるよう、家族が本人と相談しながら配置している。職員と一緒に掃除する方もある。毎週、シーツやカバー等寝具類の洗濯・乾燥など支援し、安眠に繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアを歩きたい方は自由に歩かれるため、安全に配慮した、物の配置等にも、気を配っている。自分の家(部屋)と置いていたできるように、常に心掛けている。		